

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

鹿島台小学校では、4年生が総合的な学習の時間にシナイモツゴを通して環境教育に取り組んでいます。学習活動の目的は、「地域の宝である『シナイモツゴ』の飼育と保護活動を通して、地域を見つめその良さを知り、地域を愛する心を育てながら、同じような絶滅危惧種の住む宮城県や日本の環境に目を向けさせる」ことです。実際の活動としては、「シナイモツゴ郷の会」からお預かりしたシナイモツゴを校舎前の専用池で育てる里親活動を行っています。今年度の主な活動を紹介します。

【1学期の活動】

1学期は、「シナイモツゴを知ろう」ということから活動を始めます。シナイモツゴについて、昨年度から引き継いだことを参考にしながら飼育と観察をします。

5月26日 シナイモツゴ学習会

「シナイモツゴ郷の会」の方をお招きして、シナイモツゴの里親活動を行っていくために学習会をしました。郷の会の皆さんには、学級毎にシナイモツゴの保護活動や飼育及び絶滅危惧種や天敵となる外来種の駆除などの話を、映像や具体的な資料をまじえて教えていただきました。郷の会の活動は、地域の環境保全などの活動も行っています。児童は、ここで詳しくシナイモツゴについて知ることになります。この郷の会の方の指導を受けて、本格的な飼育と観察活動が始まります。

シナイモツゴの名前は発見地の品井沼に由来していて、宮城県の地名が付いた唯一の魚であり、天然記念物に指定されているとともに、絶滅危惧種にも指定されていることも学びました。シナイモツゴを守る活動の大切さを知り、里親活動に取り組んでいこうと意欲をもちました。

6月3日 学校のシナイモツゴ専用池の池さらい

「シナイモツゴ郷の会」の方のお手伝いをいただき、4年生87名が、シナイモツゴの池さらいを体験しました。入学した時から池をのぞいたりして親しみを感じていましたが、実際に網ですくったり、すくったシナイモツゴを掌にのせて観察したのは初めてです。日頃、川や池などに入って遊ぶ経験の少ないことから、最初は恐る恐るの子もいましたが、「郷の会」の方のご指導で、歓声を上げながら生き生きと活動することができました。長い時間掌にのせているとシナイモツゴが弱ってしまうことを教えていただき、「命の大切さ」を感じました。

シナイモツゴをすくった後は、池の掃除です。来年、ため池に放流する稚魚を育てるために、みんなで一生懸命に池をきれいにしました。

6月9日 シナイモツゴ放流会

シナイモツゴの稚魚の放流が鹿島台地区のため池で行われ、児童全員が参加して放流活動を行いました。里親5校（大崎市立鹿島台小、鹿島台二小、東松島市立桜華小、美里町立小牛田小、石巻市立開北小）で育てたシナイモツゴ約

500尾を放流しました。ため池の周りの様子を観察し、シナイモツゴを育てる環境の大切さについても学びました。

6月21日 シナイモツゴの卵の放流会

学校には水槽の他に校庭に飼育池があり、6月以降に郷の会の協力により、植木鉢に産みつけられたシナイモツゴの卵を飼育池の中に設置して里親としての活動も始まります。「郷の会」の方のご指導で、プラスチック植木鉢に産み付けられた卵を鉢ごと専用池に設置しました。卵をよく見ると、すでに目がついていて中でぴくぴく動いています。「もうすぐ産まれるよ。」という「郷の会」の方のお話に、みんな、目を見張っていました。「卵から産まれて、池に出た！」と、孵化した稚魚を見つけてうれしそうにしている子もいました。

【2学期の活動】

2学期は、児童が個人ごとに設定した課題について、自主的に調べながら解決していく活動と、似たような課題を設定した児童同士でグループを作り、3年生への発表の準備を行うことにしました。

児童が課題して設定した内容は以下のようなものです。

- ① シナイモツゴの飼育の仕方について
- ② シナイモツゴの生態（性質、生息場所など）
- ③ シナイモツゴの産卵について（産卵数、産卵時期、水温など）
- ④ シナイモツゴのような絶滅危惧種について
- ⑤ シナイモツゴが減った原因
- ⑥ シナイモツゴ以外に川や池に生息する生き物
- ⑦ 天敵としての外来種

課題解決のための調べ活動は、書籍とコンピュータを活用しながら調べました。2学期後半は、3学期に行う3年生へのシナイモツゴの引き継ぎを兼ねた発表会に向けて、児童の課題解決の状況を確認し、課題の内容に応じてグループを作り、発表の準備を進めました。

【3学期の活動】

3学期は、各々の児童が調べた内容について、3年生に向けてグループ毎に発表できるようにまとめる活動を行いました。発表の時期は3月初旬とし、それまでに発表の方法、発表資料・原稿の作成及び発表の練習をすることにしました。

発表資料の作成では、発表の要点をまとめたポスター形式のものや紙芝居風に資料をまとめたものなどがありました。

資料作りのポイントは、「見やすさ」と「分かりやすさ」です。作成した資料を全体の中でお互いに見合い、その印象について話し合いました。話し合いを通して、「見やすさ」の点では、文字の大きさや下線や彩色の効果についての改善点が出されました。また、対象が3年生ということから、「分かりやすさ」という点では、資料の中の情報量や語彙の難しさが改善点として児童から出されました。

発表資料と合わせて発表原稿の作成も行いました。資料の改善を図りながら、その内容を原稿の中で補っていくことも考えながら、発表の相手である3年生に、分かりやすい発表ができるように、原稿作りも繰り返し手直しを行いました。

発表会は児童自身が主体的に運営することを目指していたので、全体の進行、各グループの進行役を決め、円滑に会が進むように、発表のリハーサルも繰り返し行いました。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）